

次なる波に備えつつ、出口戦略に舵を切れ —新型コロナウイルス感染症対策に関する提言—(概要)

2022年3月15日
(一社)日本経済団体連合会

今後も感染の波は繰り返す。With コロナを基本に、これまでの教訓を生かしながら備えを充実する。一方で、強力な社会経済活動の制限を伴うパンデミック対策からの出口を探り、エンデミック対策に舵を切るべきである。

1. これからの感染の波に備える—今後の感染対策

- (1) ワクチン接種の加速
- (2) 抗原定性検査キットを購入しやすく OTC 化、政府で一定量を確保
- (3) 治療薬等の早期承認に向けた環境整備と政府による確保
- (4) 安心してサポートが得られる自宅療養と医療へのアクセス改善
- (5) 変異株の特性に応じた科学的・合理的な対策

第6波の反省を踏まえ、①職域接種を含むワクチン接種を加速する。ワクチン接種のインセンティブとしてワクチン・検査パッケージを活用する。4回目接種に向け、国産ワクチンの承認審査状況も踏まえつつ、調達・確保をする。②抗原定性検査キットをOTC化し、セルフチェック可能とするとともに、戦略的備蓄をする。③治療薬等の国産化を進め、緊急時の治験のあり方や承認手続を見直す。早期に調達、確保をする。④軽症者や無症状の陽性者に安心してサポートが得られる自宅療養を可能とする。発熱外来へのアクセスを容易にする。⑤感染の初期段階で、先行している海外事例を参考に、新しい変異株に応じた対策をする。

2. 出口戦略の策定・実行—社会経済活動の活性化と平時からの体制構築

- (1) 社会・国民のマインドチェンジ
- (2) 国際的な人の往来の本格的な再開
- (3) 感染症法の指定感染症の位置づけによる措置の簡素化等
- (4) 業種別ガイドラインの簡素化
- (5) 予防・検査・治療に必要な物資の安定供給を可能とする体制の整備
- (6) デジタルヘルスの促進

①科学的根拠に基づく「正しい恐れ方」を広く示す発信をする。②国際的な人の往来を本格的に再開するべく、渡航先の感染危険レベルの見直し、入国審査の効率化、到着地検査の省略・簡素化、入国人数枠の撤廃、待機期間の短縮、入国後管理の簡素化等を行う。③感染症法の指定感染症の位置づけによる措置を簡素化し、積極的疫学調査等について見直す。④業種別ガイドラインの内容を絞り込む。⑤予防・検査・治療に必要な機器・部材・試薬等の安定供給を可能とする体制を整備する。⑥情報収集・集計・連携のデジタル化やヘルスケアデータの連携など、デジタルヘルスを推進する。

できるだけ早期に「エンデミック宣言」を行うべきである。

以上